

愛媛県の養殖業と水環境等を巡る課題について

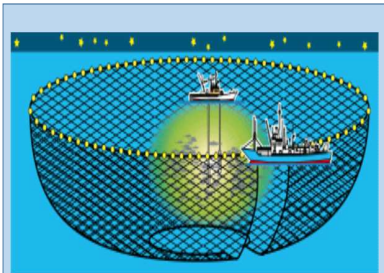
平成 3 1 年 1 月 1 0 日



愛媛県漁業協同組合連合会
代表理事会長 平井 義則



1. 愛媛県の水産業の概要



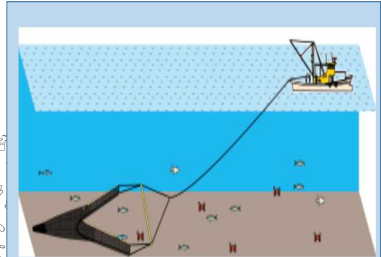
まき網漁業



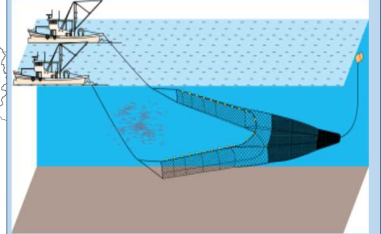
魚類養殖業(ハマチ、マダイ等)



真珠養殖業、真珠母貝養殖業



小型底びき網漁業



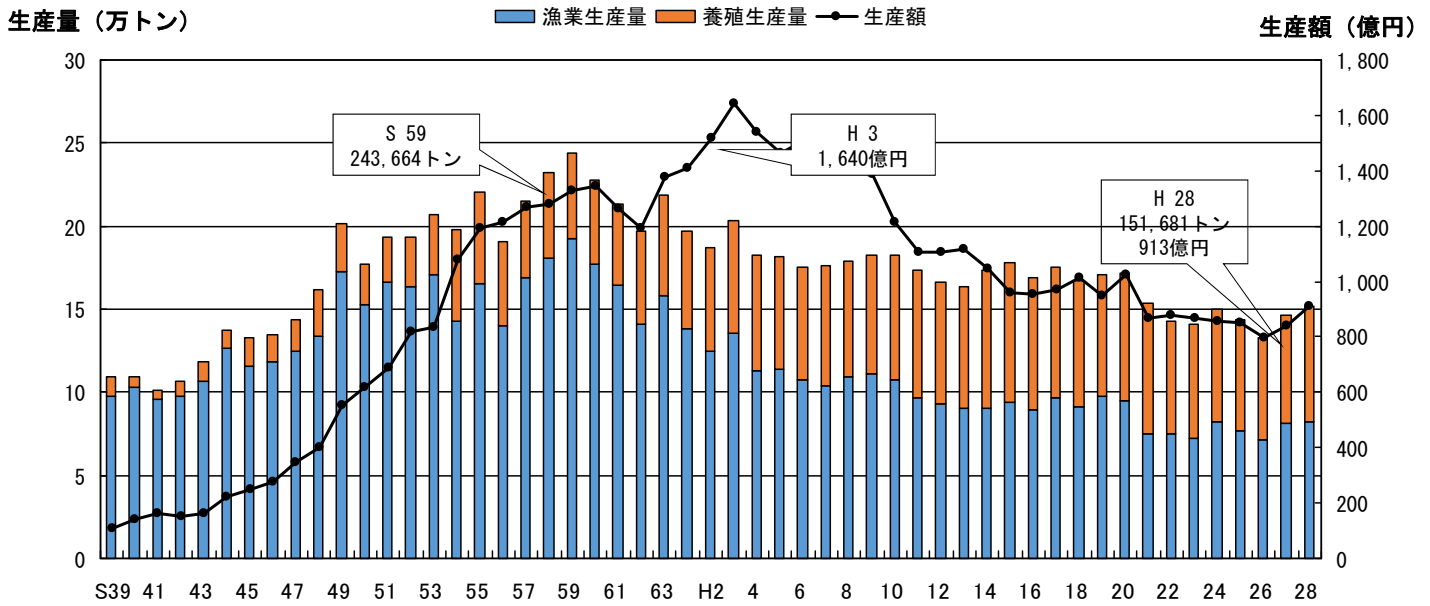
機船船びき網漁業



ノリ養殖業

(資料：えひめの水産業)

2. 愛媛県の漁業生産量・生産額の推移



H 2 8

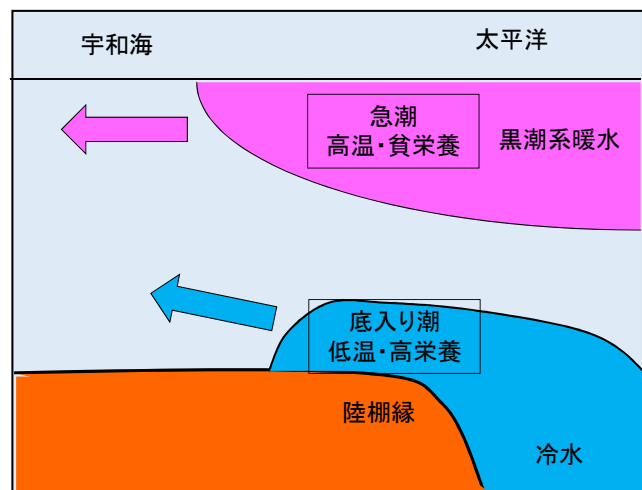
区分	生産量	全国順位	生産額	全国順位
魚類養殖	65,267トン	1位	552億円	1位
真珠養殖	7,617kg	1位	65億円	1位
真珠母貝養殖	1,200トン	1位	15億円	1位
のり養殖	3,316トン	11位	10億円	9位

(資料：農林水産統計)

2

3. 宇和海の海域特性

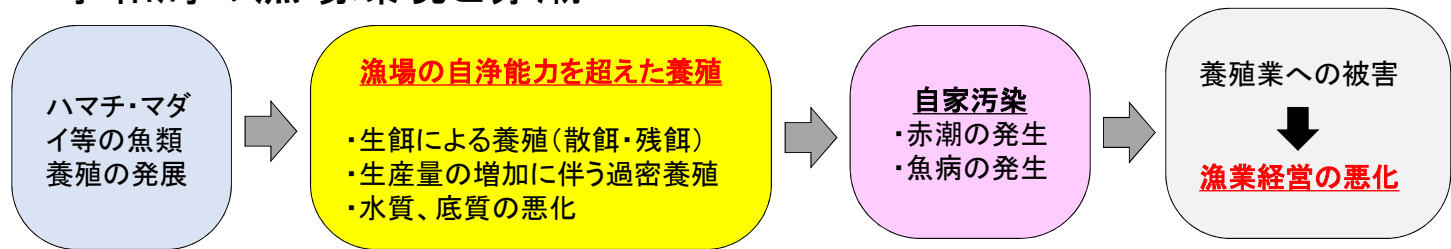
- 北は吸水瀬戸を経て瀬戸内海、南は水深100mの陸棚縁を経て太平洋、中央部は水深70～90mの平坦な海底地形、沿岸は渚を持たず急峻である。
- 黒潮を起源とする暖水が定期的に表層から侵入する「急潮」と、底部陸棚斜面から侵入する「底入り潮」があり、外洋水の影響を強く受ける海域である。



急潮と底入り潮が海水交換に寄与

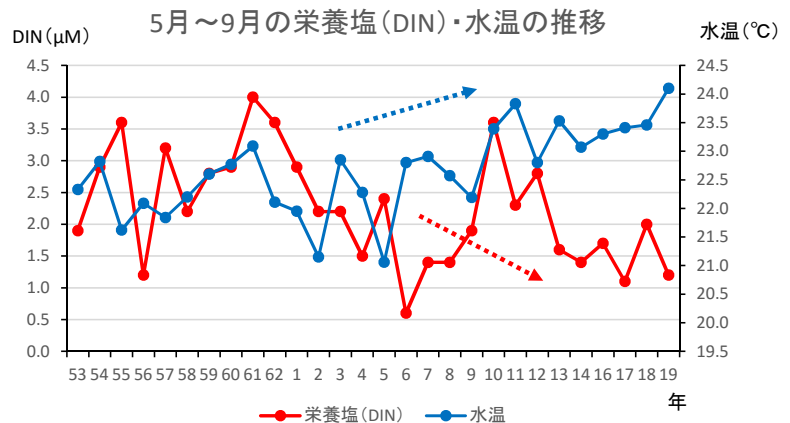
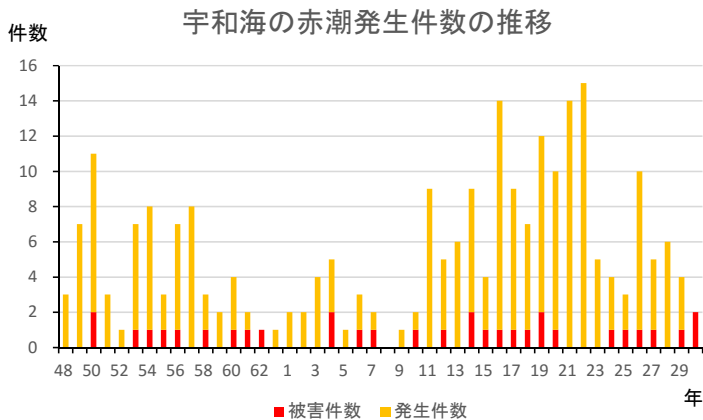
3

4. 宇和海の漁場環境と赤潮



《漁場保全への取組み》

- 愛媛県による魚類養殖場の行使基準の設定(昭和53年)
- 愛媛県かん水養魚協議会による魚類養殖生け簀の登録制の導入(昭和57年)
- 環境に優しい人工餌料の開発・普及(モイストペレット、ドライペレットの普及)

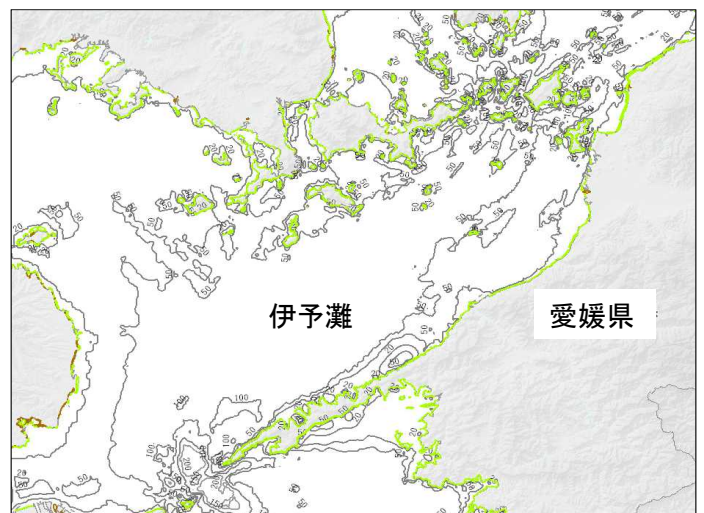
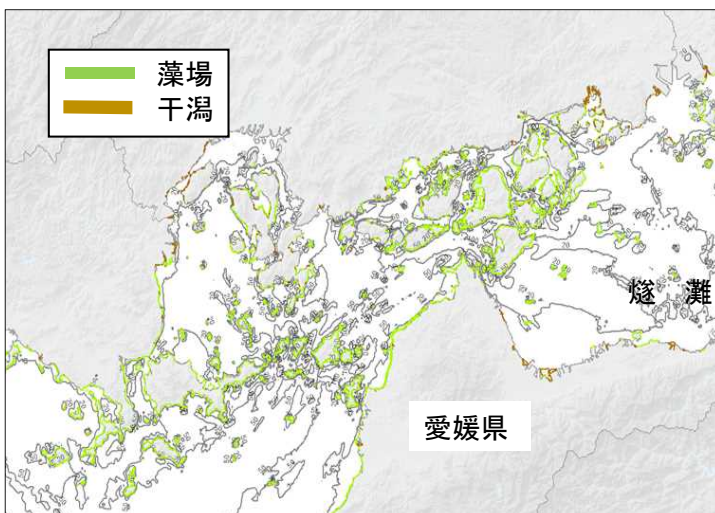


(資料：愛媛県水産研究センター)

4

5. 瀬戸内海の海域特性

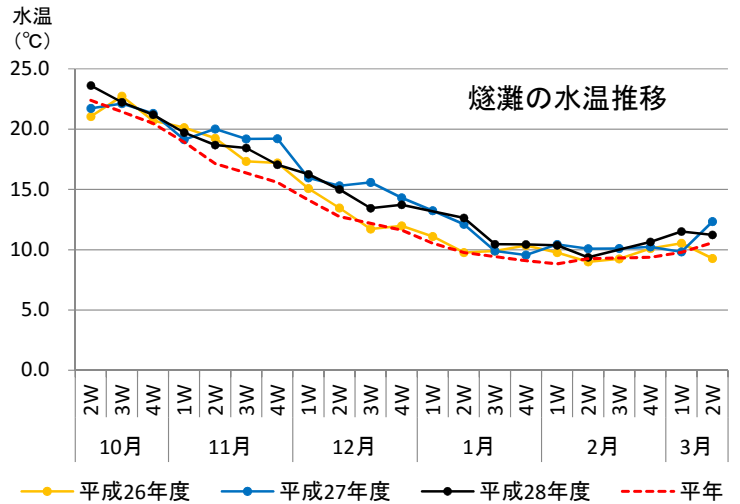
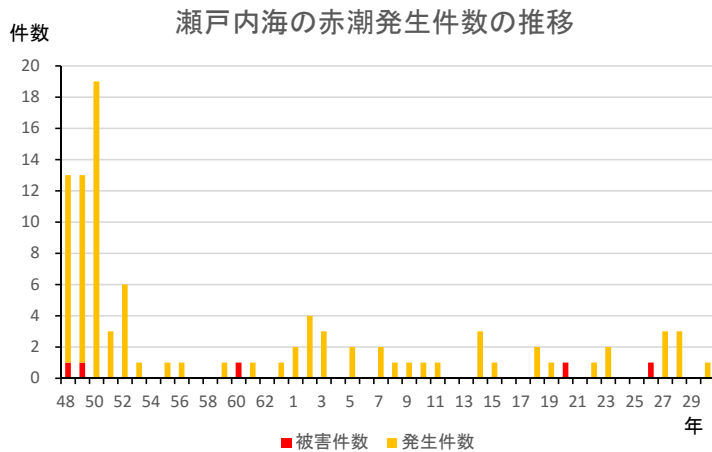
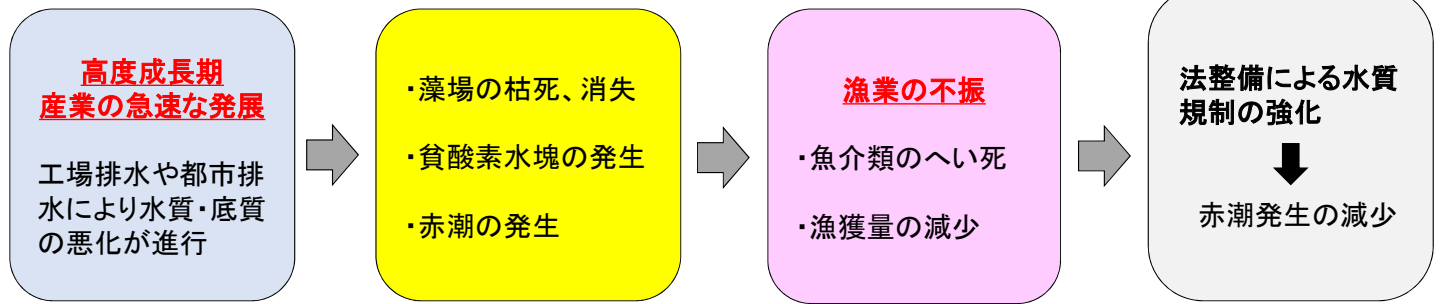
- 愛媛県の瀬戸内海は、700を越える島々や緩やかに沖合に向かって広がる平均水深20mの遠浅からなる「燧灘」と、水深50mの砂泥が中心の平坦な海底地形の「伊予灘」からなっており、いずれの海域も沿岸域に多くの渚や藻場を有している。
- 総じて地形的に狭あいで閉鎖的なことから、潮流が緩慢で海水交換も弱く停滞性の海域である。



(資料：愛媛県水産研究センター)

5

6. 瀬戸内海の漁場環境と赤潮



(資料：愛媛県水産研究センター)

7. 瀬戸内海(燧灘)のノリ養殖

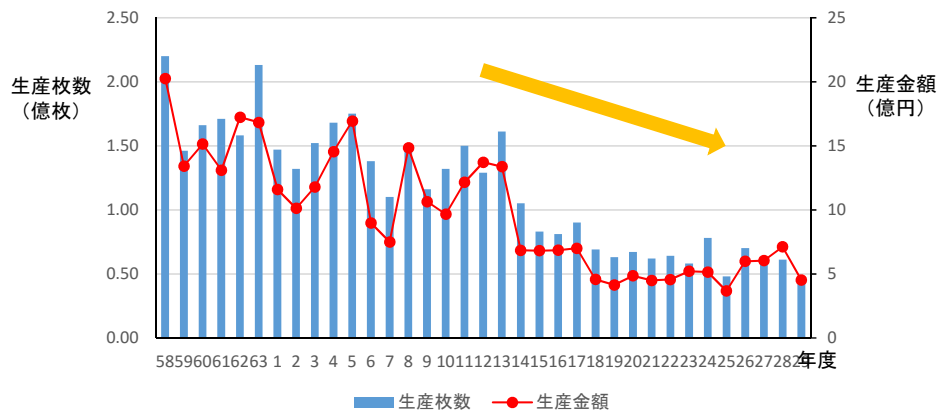


正常な養殖ノリ

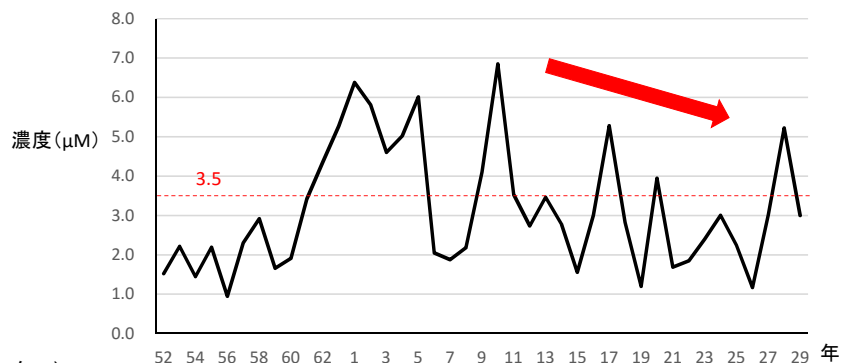


伸長不良・色落ち養殖ノリ

ノリの生産枚数・金額の推移(漁連共販実績)



燧灘の2月の栄養塩[DIN]の推移 (表層)



3.5 μM: ノリの色落ちが発生し始めるDIN濃度の目安

(資料：愛媛県水産研究センター)

8. 豊かな海の再生に向けて

平成27年10月に瀬戸内海環境保全特別措置法が改正され、はや3年余りが経過しました。

改正に際しては、新たに生物多様性及び生産性に配慮し、水産資源の持続的利用のための施策が盛り込まれましたが、我々漁業者にとっての「海の環境」は依然として良くなったとの実感がありません。

海の貧栄養化の問題や赤潮による漁業被害の問題など、多くの課題を抱えており、豊かな海を取り戻すことは容易なことではなく、一朝一夕にできることではないことは分かっていますが、海が真に豊かで“多様性”“生産性”に富んだかつてのような「水産資源の宝庫」に再生されることは、漁業者の願いであります。

そのためには、国、県、系統団体、漁業者等が一体となって豊かな海の再生に向けて積極的に施策、活動に取り組んでいくことが重要であると考えておりますので、引き続き、ご支援、ご助力をよろしくお願い致します。